

会議室の資料たち

大学文書館の会議室は、会議や打ち合わせの他に、閲覧室の代用、資料見学会、レクチャーの会場と、いろいろの用途に重宝しています。さらに寄贈受けただばかりの資料の一時置き場にもなり、現在は半澤家寄贈の半澤洵博士の胸像、理学部物理学科素粒子論研究室から寄贈を受けたダルマを仮置きしています。かつて正門に掛かっていた「北海道大学」門標、創基百周年を祝賀する提灯行列で使用した「北大百年」提灯も置いています。壁には、岩倉具視揮毫の「演武場」扁額、遠友夜学校旧蔵の新渡戸稲造の書などを掛けてあります。あまりにサイズが大きいので収蔵庫に収めづら

大学文書館へ
行こう

第20回
「札幌キャンパス一二〇年」

北海道大学大学文書館 井上 高聡

理学部物理学科素粒子論研究室旧蔵のダルマ
科学最奥の知の追究は神頼み？

かったり、資料見学会などで短時間飾った後も虫干しと風通しを兼ねてしばらく掛けっぱなしにしてあるといった具合です。

「北海道帝国大学全図」

そんな会議室住まいの資料の一つに「北海道帝国大学全図」があります。横二・五メートル、縦一・四メートルの大きなもので、ガラスの入った重厚な額ともどもかなりの重量があり、移動が大変なため会議室の壁に固定しています。今から九〇年以上前、一九三二年製作の油彩画です。油彩画と言っても色彩はモノトーンです。札幌キャンパスの南東側から北西側に向かって俯瞰するように描いています。建物の配置図のように真平面ではなく、航空写真ほどの高



「北海道帝国大学全図」(一九三二年、部分)
正門から中央ローン・農学部教室あたり

度からの視点でもないため、当時のキャンパスの様子を立体的なジオラマを見るように把握できます。現在と比較してキャンパスの変遷を説明するのにたいへん便利です。

「旧林学教室」(古河講堂)や、昨年からワイン教育研究センター棟となった「旧昆虫学・養蚕学教室」、北海道大学出版会などが使用している「旧図書館閲覧室・書庫」、総合博物館としてお馴染みの「理学部本館」などの現有建物を確認できます。中央ローンやポプラ並木、目を凝らすとクラーク胸像も描き込んであります。

一方、現在では見られないのは、学科ごとに独立していた以前の農学部の建物群、「白壁館」として親しまれた旧工学部建物、北十三条通りを挟んで南北

に對置していた医学部基礎棟と臨床棟(附属医院)などです。恵迪寮は北十六条にあり、この建物は今は一部が「北海道開拓の村」に移築されています。現在の高等教育推進機構のあたりはブランド、北キャンパスを形成している北十八条以北は農場の敷地です。また、北大通りには市電が走り、農場から西側は手稲山まで広野のように土地が広がっています。ここに描かれた多くの建物は、一九六〇年代あたりまでは面影を残していました。姿を消し、建物の建て替えが進みました。

一二〇年の歴史を織り込んだ札幌キャンパス

北海道大学の前身札幌農学校が、演武場(現札幌市時計台)のあった札幌駅南側から、現在の地にキャンパスを移したのは一九〇三年です。札幌キャンパスは一二〇年の歴史を有します。キャンパスを歩くと、移築はなされているものの札幌農学校開校間もない時期の農場施設があり、キャンパス移転時の洒落た建物が残り、戦前の重厚な建築が見られ、高度経済成長期に建て替えられた建物がおも現役で、近年の機能的な高層建物も目立ちます。札幌キャンパスには一二〇年の歴史が重層的に併存しています。



大学文書館二階展示回廊パネル展示の見学風景
近日公開予定

大学文書館では、この夏から二階展示回廊でパネル展示「札幌キャンパスを歩く」あの時あの場所、今昔」を実施します。正門、古河講堂、クラーク像、ポプラ並木、工学部、恵迪寮、第二農場などポイントを絞って、写真や図でキャンパスの建物・風景・雰囲気の変遷を紹介します。また、函館キャンパスの様子もパネルにしています。

九〇年前の札幌キャンパス図やパネル展示で予習をして、実際に札幌キャンパス一二〇年の歴史を歩いてみませんか。